

愛知・惣作遺跡

そうさく

1 所在地 愛知県安城市木戸町惣作

2 調査期間 二〇〇四年（平16）一〇月～二〇〇五年三月

3 発掘機関 (財)愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 宮腰健司・鈴木正貴

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代～古墳時代、奈良時代～平安時代、戦国時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(岡崎)

惣作遺跡は、矢作川に沿って南流する鹿乗川の左岸、標高約7mの自然堤防上に立地する。鹿乗川に沿った一帯には、人面文土器が出土した亀塚遺跡など、弥生時代から平安時代にかけての集落遺跡や古墳、奈良時代創建の寺領廃寺など多数

の遺跡がある。

今回の調査は、鹿乗川の河川改良工事に伴うもので、検出した主な遺構としては、弥生時代中期から古墳時代初頭の竪穴建物や土器棺、奈良時代から平安時代の掘立柱建物・土坑などがある。特に、一〇世紀の大型土坑周辺では「賀」「井」「方」「夙」「盈」などと記す墨書椀・皿が計四二点出土し、寺領廃寺と関連すると思われる瓦や、東側の落ち込みでは銅滓も出土し注目された。

木簡は、大型土坑の北側を東西に走る河道の上層から一点出土した。同層からは、横槌や堅杵・板・杭などの木製品がまとまって出土している。時期は一〇世紀中葉頃である。

8 木簡の釈文・内容

(1) [□□□□□□□□] [力カ]

225×21×10 011

上端はほぼ水平に切られ、上面・側面とも平滑になるよう調整されている。下端は表裏及び側面が削り込まれ先尖り状を呈する。全体に風化が激しく肉眼では墨書の判読は難しい。赤外線カメラによる観察で、六～七文字が書かれていることが判明したが、内容については不明。なお釈読にあたっては、日本福祉大学の福岡猛志氏のご教示を得た。

(宮腰健司)